

Interview

春日部市立医療センター

～ 地域医療に対応した新病院の機能と役割 ～

春日部市立医療センター

病院事業管理者 三宅 洋 氏
医療部情報管理室 浅子 修 氏

東北大学大学院 医学系研究科

公共健康医学講座 医療管理学分野 教授 藤森 研司 氏

春日部市立医療センターは、平成22年3月に策定した春日部市立病院再整備計画基本構想に基づき、地域医療連携体制の拠点となる医療機関です。また、5疾病・4事業への対応を重点施策に定め、地域の中核を担っています。特にがん医療については、地域がん診療連携病院の機能を強化しています。

春日部市の公的医療機関としての役割を果たすため、センター内でチーム医療の推進や周産期医療の充実、精神科医の常勤など、診療科目、医療機器、スタッフともに充実した体制の実現と、すべての医療領域で市民の方々の期待が大きいことを認識し、「心ある医療」の向上に努めています。患者の皆様への負担を少しでも軽くするために、職員の対応なども含めて「患者満足度」を大切に、皆様から選ばれる病院を目指しています。



春日部市立医療センター 外観

■ 埼玉東部医療圏における新病院の役割

藤森 以前にも訪問させていただきましたが、この新病院はいつオープンされたのでしょうか。

三宅 平成28年3月に竣工し、7月にオープンしました。

藤森 前は移転の直前だったわけですね。

三宅 旧病院は昭和42年に開設しましたので、



藤森教授

老朽化も進んでいました。その点、新病院は綺麗なはもちろん、病室についても個々のプライバシーが守れるような構造となっております。病棟の廊下はスペースを広く取って移動しやすくしており、ストレッチャーに乗っている患者さんが眩しくないように、照明を廊下の脇へ寄せて設置しています。

藤森 院内をさきほど拝見いたしました。患者さんが受診する際判りやすいよう、受付が分散していたり、随所に工夫が感じられますね。入ってきた時のホールもとても良い印象でした。病床数は以前より多くなったのでしょうか。

三宅 13床を増床しまして、現在は363床です。

藤森 この3年の間に地域医療構想の影響などもあると思うのですが、変化はありましたでしょうか。

三宅 医療圏については殆ど変わっていません。二次医療圏の埼玉県東部は、大学病院などを除くと当院のほか、草加市と越谷市に各市立病院があって、あとは個人病院が少しづつある感じで数的には少し増えていると思います。



三宅先生

藤森 新病院になってからの患者数はどうでしょうか。

三宅 1日の平均入院患者数は移転前より約70件増えております。

藤森 大分増えていますね。医療機器を新たに導入されたりしているのでしょうか。

三宅 ロボット手術支援装置(ダビンチ)、放射線治療装置(リニアック)、PET-CT装置など、最先端の機器を地域の中でいち早く導入しました。

藤森 がん診療に力を入れている様ですね。

三宅 当院は地域がん拠点病院に指定されております。がん治療により力を入れるために、緩和ケア病棟を10床設置しました。がんの特化とまではいきませんが、がん診療にはかなり力を入れています。特に呼吸器肺がんと乳がんに関しては、多くの症例数を保持しています。

藤森 新病院となり、がん診療以外にも力を入れている診療科などはありますか。

三宅 がん診療以外では、周産期医療に力を入れており、NICUを3床設置しました。昨年の4月からは、埼玉県の「新生児センター」※にも認定されています。また、地域中核病院としての役割として、地域完結型の医療の完成を目指しています。

もうひとつは、救急医療の充実です。春日部地域の救急の約60%は、当院が担っております。旧病院の時代よりも、症例数やシェアも増えている状況です。

藤森 市民の期待を一身に背負っていますね。埼玉県の東部医療圏は、若い年齢層が多く、東京への通勤者も多くいると聞いていますがどのような特色があるのでしょうか。

三宅 若い年齢層もいるのですが、埼玉県の中でも高齢化が最も進んでいる地域でもあります。そのため、新病院は様々な工夫をしております。

※新生児センター:

医療が必要な新生児の受け入れに対応できる施設として埼玉県から認定された施設。産婦人科および新生児医療を担当する小児科等の連携により24時間体制で地域の周産期医療・小児診療を支えていくもの。

■MEDI-ARROWSの活用と医療看護必要度

藤森 以前作成されていた、医師ごとの資料作成などは今もされているのでしょうか。

浅子 今は少し形を変えて、紙ではなくMEDI-ARROWSの画面を直接見ていただき、議論を行っています。MEDI-ARROWSの持っている概ねすべての機能を使っており、特に、拡張機能や自由分析では、手術技術度などの付加情報も抜き出せますので、よく活用しています。



藤森 データを見ている中で、病院経営上の課題は何かありそうですか。

浅子 入院外来の収益は年々伸びているのですが、機器類を旧病院から持ってきているため、あと2年くらいで入れ替えの時期が来てまいります。特に大きな機器の入れ替えとなる



浅子氏

とかなりの費用がかかってしまいます。また、入れ替えだけでなく維持をするための費用もかなりかかります。その入れ替えの時期の財務状況が少し心配ではありますね。

藤森 機器等の入れ替えについては毎年かなりの費用がかかると思いますので大変ですね。データ分析において、今一番の大きなテーマなどはありますか。

浅子 業績評価ということで、個人ごとのデータを集計しています。在院患者や来院患者のデータを結びつけたりしてアクティビティを分析しています。

藤森 かなり多面的な分析を行っていますね。

浅子 分析を定期的に行うことで、分析の効果も上がっていると思います。「普通と比べて」といっても、その「普通」がわからないと変化がわかりません。MEDI-ARROWSの画面を定期的に巡回していますので変化があると気があります。

藤森 医療看護必要度については、どうでしょうか。

浅子 7対1を維持できるよう努力しています。平均30%ほどですが、時々30%を切ってしまいます。病床稼働率は90%を少し切るくらいです。

藤森 看護必要度については気が抜けませんね。病床稼働率は高いと思います。以前より、ぐっと上がった感じですね。

浅子 在院日数も短縮され、入院期間尺度も2.0より短い状態です。医療看護必要度の分析はMEDI-ARROWSのシミュレーションツールからデータを加工して見えています。

藤森 移転されて患者数も増えて、ますます頼られている感じですね。データ活用も進んでシャープになっていると思います。あまり他の病院では行っていないような分析などはありますか。

浅子 当院の救急車の台数は確かに増えているのですが、救急搬送で入院する重症患者さんは看護必要度に関わってきますので、少し心配でした。そこで、自病院の救急搬送受け入れの過去からの推移、消防の救急搬送データと厚労省公開データの入院経路(救急搬送)とを対比し、シェアを分析しました。受入件数は伸び出ている一方、救急搬送からの入院については受入件数ほどには、伸びていないことが見えてきました。



インタビュー風景

藤森 救急搬送された患者さんが、必ずしも入院に繋がっているわけではないのですね。おそらく、搬送されてくる患者さんの質が少し変わってきたと思います。例えば、高齢の方で誤嚥性肺炎とか、敗血症などの患者さんが増えてきているのだと思います。

明らかに手術対象ではない内科系の患者さんの場合、最初の2日間は救急搬送で看護必要度をカウントできませんが、3日目になると点滴治療のみでA項目もC項目もカウントできないことがあります。しかし高齢ということで現場では実際手間がかかり、大変な思いをすることになります。

B項目はそれなりの点数が取れますが、A項目については救急搬送される患者数ほどには点数が取れず、3~4日で退院できる患者さんが多いのだと思います。これはどこの医療機関でも同じではないでしょうか。

脳梗塞の場合も、C項目はありませんし、A項目も2点くらいの患者さんが多いので、看護必要度はあまり高くない傾向です。

三宅 高齢者の昔と今では印象が大分違ってきていると感じております。例えば実年齢が80才の方でも行動がアクティブな方もいれば、70才でも全然動けない方もおられます。これからは、個々の患者さんに合ったオーダーメイドのがん治療が必要ではないかと考えています。

藤森 春日部市民は新しくなった病院をどのように評価しているのでしょうか。

三宅 投書などを拝見していますが、概ね良い評価をいただいている印象です。現在の春日部市長がとても好意的で当院の宣伝をしてくれています。また、現在、当院の隣にある市役所を新築移転し、その跡地に公園を作る計画があります。

藤森 それは素晴らしいですね。広々とした公園は患者さんのリハビリなどにも良い環境になると思います。本日はありがとうございます。とても良い病院になられていて、感動いたしました。



左から、藤森教授、三宅先生、浅子氏

春日部市立医療センター

所在地：〒344-8588

埼玉県春日部市中央六丁目7番地1

URL：<http://www.kasukabe-cityhp.jp/index.html>

病床数：363床（一般病床361、感染症病床2）

診療科：内科、循環器内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神神経科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科